

# 救援チーム設立へ

AMDA菅波代表が帰国会見

## スマトラ沖地震支援は継続

スマトラ沖地震による  
津波被災者の支援強化の  
ため、インド入りした国  
際医療ボランティアAM

D Aの菅波茂代表は十一日、岡山市櫛津の本部で帰国報告会見し、現地での医療支援を続けることにも、同様の大規模災害への対応を目指し、国際災害救援チームを設立する構想を明らかにした。菅波代表は岡山を六日に出発し、十日に帰国。インド南部最大の医療拠点・マニパル医科大で、大学長やAMDAインド支部長と協議し、約一カ月間と見込んでいた医療支援を二月下旬まで延長することを決めた。

大学や民間組織と提携する構想を打ち出した。菅波代表は「現地は衛生環境が劣悪で病気がまん延しており、医師団は一日あたり約二百人を診察し必要性が高い。今後大規模災害には国境の壁を越えた救援活動が必要」と説明した。

AMDAはインドネシアなどの津波被災地へ本部や各国支部から医師、看護師ら計七十三人を派遣。外科手術などの医療活動や感染症予防対策などを行っている。

活動への募金は郵便振替(01250-2-40709、口座名AMDA、通信欄に「環インド洋地震・津波」と記入)で受け付けている。



インドから帰国し会見する菅波代表 (中央)